

理事長所信

岩瀬 光正

【はじめに】

日本国民の「象徴」としての務めを果たされてきた天皇陛下が2019年4月30日に退位されます。これまで30年続いた「平成」という一つの時代が終わろうとしています。その意味について、昭和史関連の著書で知られる作家、半藤一利さんはこのように述べています。

「陛下の退任は、今の日本人が“天皇”と“皇室”の役割を考えると同時に、今日まで日本が歩んできた道がどんなものだったのかを振り返る機会かもしれません。」

平成はどんな時代であったでしょうか。新しい時代へとどう繋げていくべきなのでしょう。

昭和の終戦直後、焼け野原の日本を上空から見たGHQは当時、この国が復興するまでに80年を要するだろうと言いました。しかし実際には、たったの20年でインフラを整備し、東京オリンピックを開催するまでになったのです。1968年には、米国に次いで世界第2位の経済大国になりましたが、それには戦前より世界有数の工業力、技術力を有していたことに加え、本国が教育にも力を入れており、優秀な人材を多く育成できたことも、復興を加速させた大きな要因でした。

このように勢いと情熱のあった昭和の時代でしたが、時代は平成に入りその勢いを失います。30年間で17回もの首相交代があったことから、いかに政治が不安定であったかが伺えます。失われた20年という言葉で表されたように長く経済が低迷した時代でもありました。その一方で情報技術や人工知能といった技術が飛躍的に進歩した未来を感じさせる時代でもありました。

「平成とはどんな時代だったか？」と、ある調査機関が世論調査を行った結果、最も多かったのは「動揺した時代」（42%）次いで「沈滞した時代」（29%）だったといます。昭和の高度経済成長期からのバブルの崩壊があり、阪神淡路大震災や東日本大震災などの自然災害に見舞われ、少子高齢化は益々加速していきました。「明るい時代」と回答した人は最も少なく、また人とのつながりや結び付きが希薄になったと感じている人が実に79%にも上ったとの結果が出ています。

戦後の復興に向けて、人々が手を取り助け合い、望んでいた物質的豊かさを手に入れたことで、その根底にあった精神的豊かさを失ってしまったように感じます。新しい時代はどんな時代になっていくのでしょうか。新しい時代を創っていくのは、私たちなのです。

戦後の日本をここまで素晴らしい国へと導いた、先人たちの誠実で勤勉で道徳心にあふれたその姿を見習い、新しい時代を切り拓いていく力を、若い世代の一人ひとりが身につけていくことが、今求められていることなのです。その若い世代を育成していくのが私たち世代なのです。

これから始まる新しい時代において、持続可能な開発目標（SDGs）を意識し、どのようにJC活動を展開していきたいか、私の考えと決意を述べたいと思います。

【未来を担う青少年の育成】

未来を担っていくのは子供たちです。子供たちにはどうか夢と希望をもって新しい時代を生きてほしいと願います。

これからの新しい時代において子供たちが活躍できるように、困難を乗り越えられるだけの忍耐力を身につけ、彼らが挑戦できる可能性を広げる手助けをしたいと思います。それが子供たちの夢や希望になり、目標に向かって努力をし、この地域から素晴らしい人材が生まれ、それが日本のためになる。私はそう思います。

そんな人材を育てること、そして子供たちを守ることが私たちの使命であると考えます。

裾野青年会議所を存続させ拡大していくには、将来の担い手である子供たちへの働きかけが必要不可欠だと思います。キッズJCという組織を作り自分たちの想いをカタチにすることを体験してもらい、地域のリーダーとなる人材を少年時代から育成していきたいと思います。

私たちが元気で非日常なことに挑戦して、地域の発展のために努力を惜しむことなく、子供の憧れの的になること。「将来はJCに入りたい」と思ってくれる子供が一人でも多く出てきてくれるようなロールモデルとなれるよう努めていきます。

【青年会議所をもっと知ってもらおう】

JC活動はまだまだ地域にとって知名度の高いものとは言えません。JC活動の魅力は地域を良くしたいという同じ志をもった同世代の仲間が集まり、行政や地域住民を巻き込み生涯の仲間や揺るぎない信頼を得られることにあると思います。活動は個人を成長させ、その経営する会社を成長させ、個々の会社の成長は地域を発展させ、最終的には国家を強くしていきます。

私が青年会議所の存在を知ったのは、先輩から青年会議所の勧誘を受けてからでした。それから意識するようになり、地域のために活動している団体という認識ができました。自分が入会するまで素晴らしい活動をしている団体だと知ることはできませんでした。実際に入会して知ったことは、自分たちが払っている会費を予算にして、それで地域の発展に繋がる事業を行う。また、地域がどうすれば良くなるのか、その事業をどうすれば成功させられるのか、連日夜遅くまで委員会や会議を行っている。そこまでできる団体はなかなかないと思います。

素晴らしい活動を行っているのになぜもっと知られていないのか、それは発信やアピールが足りないからではないでしょうか。例えば一番人の目につくお祭りで青年会議所だと認知してもらうアピールができていないこと。それは服装1つ見てもそうではないでしょうか。青年会議所を知らない人が青年会議所を知るきっかけは、自分たちでもっともっと活動をアピールし発信していくことが大事だと思います。

どれだけの若者がJCの存在とその活動内容を知っているのでしょうか。次世代を担う若者たちにアプローチするには、彼らと最も接点の多いソーシャルネットワークやメディアを活用することが効果的だと思います。その特性を生かし、青年会議所からあらゆることを発信していきたいと思います。その発信に対する地域住民の声を聞き、最大限に活動に反映させていくことで、より地域のニーズに合わせた活動ができるはずです。

【組織の拡大と成長】

現在、裾野青年会議所には23名の有志が在籍しております。青年会議所には地域を代表する中小企業経営者や後継者が多くいます。組織を拡大することはすなわち地域の活性化に繋がっていきます。JC活動は、所属するメンバー一人ひとりを成長させ、メンバーの成長はその経営する、または所属する企業を成長させ、企業の成長は地域を成長させていきます。JC出身者が地域の発展の中心的存在となっているのは、言うまでもありません。

組織拡大のためには、まずは裾野青年会議所の存在とその素晴らしい活動内容を広く知ってもらう必要があります。また、魅力ある活動団体であり続けるために、常に成長できる組織でありたいと思います。組織の成長には 個々の成長が欠かせません。

一人ひとりがJAYCEEとしてのプライドをもち、奉仕、修練、友情の三信条を胸に、共通の目標達成に向かって個々の知識や体験の共有をしながら成長していけたらと思います。

組織のあり方はリーダーのあり方でもあります。成長できる組織風土を固めるために、リーダーとしてメンバー間のコミュニケーションがとりやすい環境づくりに努めていきたいと思います。

【成長のために感動を意識しよう】

青年会議所が素晴らしい組織だと自分自身が感じるには事業の達成感で感動を共有することが必要です。人は感動を得られるともっと味わいたいという欲が出てきます。2019年度の裾野青年会議所では、常に「感動」を意識して1年間JC活動をしていきたいと思います。

感動には沢山の意味があります。サプライズによる感動、おいしいものを食べたときの感動、サービスに対する感動、非日常を味わう感動、達成感による感動などです。

「感動」のために考え、努力をすることによって人は成長します。JC活動により自身が成長すれば、企業、地域の成長に繋がると思います。

【50周年に向けて】

私たち裾野青年会議所は2020年に創立50周年を迎えます。1971年にチャーターメンバーが集まり「裾野市の発展に奉仕する」、「世界の平和を願う」、「人類の福祉向上に寄与する」を創始の精神として掲げ、その想いを今日まで受け継いできました。

半世紀という多岐に渡りこの裾野青年会議所を發展させ、継続してこられた先輩たちに感謝の気持ちを持って50周年記念式典を開催したいと思います。

当年度はその準備を進めて参ります。

【結びに】

私が理事長の職に就かせていただけるのは、皆様のご協力があったものだと思います。役職が人を成長させてくれると言いますが、今日は最良の一日、今は無二の好機だと思い、この1年を無駄にしないように、精一杯成長させていただこうと思います。

私たち青年会議所のメンバーの使命としては、強い想いを持って地域の先頭に立ち、努力をしていく

ことが大事だと思います。今のままでは日本という国が先進国であり続けることは難しく、日本が良くなることはないと考えます。新しい時代を作っていくのは私たち青年世代であり、私たちの活躍がこの先の日本に大きな影響を与えると考えます。それには私たち青年世代が元気であり、次の世代がもっと元気になるような、いわゆる明るい豊かな社会を築き上げていくことが、私たち裾野青年会議所の使命であります。明るい豊かな社会を築き上げるのに何が必要か、それは私たちが住むこの地域を今よりも良くしたい、この地域をもっと知ってほしいと思う青年世代が集まり、地域住民の声を聞き、その想いを発信していくことだと思います。それには一人でも多くの仲間が必要であり、より一層組織を強固なものにしていく必要があります。

私たちが本気で考え行動すれば地域は劇的に変えられます。

私は2019年度公益社団法人裾野青年会議所の理事長の職を預かる身として、一つの信念のもとこの職を全うしたいと思います。それは、「理事長の職を預かる」というように、次代の裾野青年会議所からこの職をお預かりしているのものであるということ。お預かりしている以上は大切にしなければならぬし、もっと良くして裾野青年会議所にこの職を返さなければいけない。しかしそれ以前に、立ち上げから現在まで裾野青年会議所を先輩たちがどんな想いで繋いできてくれたのか、本を忘れず、末を乱さず、そういう想いで一年間全うしていく所存であります。

地域から、子供たちから、裾野青年会議所って素晴らしい、かっこいいと思ってもらえるように一つひとつの姿勢、行動から意識していきたいと思えます。

地域のために行動したい衝動
明朗な仲間との友情
いま俺たちに必要なのは感動

2019年度

公益社団法人 裾野青年会議所

スローガン

T o u c h Y o u r H e a r t

～ 感動しよう！ ～